

観点 番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	音楽・103 音楽・203 音楽・303 音楽・403 音楽・503 音楽・603	小学音楽 おんがくのおくりもの1 小学音楽 音楽のおくりもの2 小学音楽 音楽のおくりもの3 小学音楽 音楽のおくりもの4 小学音楽 音楽のおくりもの5 小学音楽 音楽のおくりもの6
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	<p>○ 歌唱については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～音楽に合わせて体を動かしたり、声の感じや強さを変えたりして歌う活動</p> <p>第3,4学年～曲に合った歌い方を見付けたり、響きを大切にしながら歌い方を工夫したりして歌う活動</p> <p>第5,6学年～表現を工夫して聴き合いながら歌い合わせたり、思いや意図を大切にしながらみんなで表現を工夫したりして歌う活動</p> <p>○ 器楽については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～一つの楽器からいろいろな音を出したり、楽器を選んで歌に合わせて演奏する活動</p> <p>第3,4学年～リコーダーの音でまねっこ遊びをしたり、パートの役割を生かしたりして演奏する活動</p> <p>第5,6学年～パートの役割や曲の特徴を生かしたり、旋律や響きの変化を捉えたりして演奏する活動</p> <p>○ 音楽づくりについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～リズムをつくって遊んだり、たいこの音やリズムを声で表したりして音楽をつくる活動</p> <p>第3,4学年～伴奏に合わせて旋律をつくったり、音階の音を選び、友達と旋律をつなげたりして音楽をつくる活動</p> <p>第5,6学年～和音に合わせて旋律をつくったり、音の重ね方、強弱、速さなどを工夫したりして音楽をつくる活動</p> <p>○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～音楽に合わせて体を動かしたり、いろいろな音や旋律の移り変わりに気付いたりして聴く活動</p> <p>第3,4学年～楽器の音色や曲の流れを捉えたり、曲の流れを感じ取り全体を味わったりして聴く活動</p> <p>第5,6学年～曲のおもしろいところを見付けたり、世界のいろいろな声の表現や器楽の響きに気付いたりして聴く活動</p> <p>○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～強さや速さを感じ取って聴いたり、音の重なりやリズムを感じて演奏したりする活動</p> <p>第3,4学年～旋律の変化や流れを感じ取って聴いたり、音の重なりやリズムを感じて演奏したりする活動</p> <p>第5,6学年～主題の変化や伴奏の動きを感じ取って聴いたり、旋律の動きや重なりを感じて演奏したりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～「どれみとなかよし」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、選んだ音に合わせて手の高さを工夫する学習の後に、歌に合わせて体を動かすなど、考えを広げた</p>			

	<p>り、深めたりする活動</p> <p>第3,4学年～「日本と世界の音楽」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、おはやしづくりの後に、世界に伝わるいろいろなリズムや歌を楽しむなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第5,6学年～「アンサンブルのみりよく」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、交響曲の鑑賞の後に、思いや意図を大切にしながらみんなで表現を工夫するなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>
<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1,2学年～いろいろな太鼓の音を楽しむ学習の後に、おまつりの音楽をつくる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3,4学年～音の動き方を生かして旋律をつくる学習の後に、旋律の特徴を生かして歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第5,6学年～日本の民謡を調べる学習の後に、旋律の感じを生かして民謡を歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～歌唱は46ページ、器楽は14ページ、音楽づくりは15ページ、鑑賞は14ページであり、総ページ数は82ページで、前回より約3%増となっている。</p> <p>第2学年～歌唱は50ページ、器楽は18ページ、音楽づくりは14ページ、鑑賞は14ページであり、総ページ数は82ページで、前回より約3%増となっている。</p> <p>第3学年～歌唱は52ページ、器楽は33ページ、音楽づくりは11ページ、鑑賞は13ページであり、総ページ数は86ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第4学年～歌唱は47ページ、器楽は18ページ、音楽づくりは9ページ、鑑賞は19ページであり、総ページ数は88ページで、前回より約5%増となっている。</p> <p>第5学年～歌唱は52ページ、器楽は20ページ、音楽づくりは6ページ、鑑賞は11ページであり、総ページ数は88ページで、前回より約2%増となっている。</p> <p>第6学年～歌唱は47ページ、器楽は23ページ、音楽づくりは5ページ、鑑賞は13ページであり、総ページ数は88ページで、前回より約5%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 折り込みを使ったワイドな誌面で、歌詞に忠実な写真を掲載したり（第3～6学年）、即興的に表現する活動を取り入れたり（第1,2学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭に「学習マップ」を掲載し、各題材で学習する内容を解説して見通しを持たせたり（全学年）、「学習の進め方」コーナーを設け、それぞれの学習の目的や留意点を簡潔に示したり（第3～6学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。</p> <p>○ ユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）、他教科と関連する教材として「ショートタイムラーニング」を掲載したり（全学年）するとともに、二次元コードを掲載し、旋律の動きを捉えることができる動画を活用できるようにする（第3～6学年）など、使用上の便宜が図られている。</p>
	<p>○ 地域素材については、歌唱や鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」や「江差追分」が取り扱われていたり、音楽と生活を結び付け</p>

<p>指導上の 配慮等</p>	<p>る地域における学習活動が展開できる内容が取り扱われている。また、鑑賞の授業において、地域のゲストティーチャー（弦楽器、管楽器、和楽器）を招き、実際に楽器に触れたり音色を聴いたりする学習活動に活用することができる教材を扱っている。</p> <p>○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、演奏を録音して聴き返してみる活動が設定されている。また、「まなびリンク」のウェブサイトを設け、音楽に合わせた身体表現の例や楽器の奏法、音色、拍子等について動画で確認できるようになっているとともに、鑑賞曲のページにある二次元コードからは、曲の流れや音の重なりが一目で分かるよう演奏に合わせて楽譜に色が付き、音楽の構造が視覚的に捉えられるよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携については、各教材のページの上部に「音楽のもと」として音楽を形づくっている要素を示したり、中・高学年で関連事項がメモできるような工夫がなされているとともに、学年で扱う音楽を形づくっている要素を一覧にした『『音楽のもと』まとめ』や当該学年では扱わない「はってん」の内容が掲載されたりするなど、中学校へのスムーズな移行を促すための配慮がなされている。</p>
<p>本市児童の 学習の状況等</p>	<p>○ 音の重なりや、特徴的なフレーズを聴いて感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを生かして表現を工夫する力を育むことができるよう、表現の特徴や工夫のポイントを「まなびナビ」で示したり、中学年から「学び合う音楽」のページを設け、歌い方の工夫など表現を深める活動ができるよう工夫がなされている。さらに、歌唱と身体表現を関連させた活動や、「もっとあそぼう」のページを設け、歌唱や器楽の題材において発展的に表現を工夫する力を育成するよう配慮がなされている。</p> <p>○ 音遊びや即興的に音を選んだりつないだりして表現する力を育むことができるよう、「音のスケッチ」という教材を掲載し、音を重ねたり選んだりするなどの活動がしやすくなるよう、手順が図解されていたり、つくったリズムや音楽を書き込めるワークシートが設定されたりする工夫がなされている。また、図形楽譜を用いて、簡単に音楽づくりが経験できるよう配慮がなされている。</p> <p>○ 鑑賞において、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、友達と伝え合い、友達の感じ方や考え方に共感する力を育むことができるよう、巻末の「音楽を表すいろいろな言葉」に曲想や音楽の構造を伝えるための言葉が掲載され、その言葉を用いて感じたことを伝えられるよう工夫がなされている。また、気付いたことや感じ取ったことをワークシート欄にまとめ、話し合う活動に生かすことができるよう配慮がなされている。</p>
<p>その他</p>	<p>○ 「心と心をつなぐ音楽」の中で音楽の著作権について触れられている。</p>

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		27・教芸	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	音楽・104 音楽・204 音楽・304 音楽・404 音楽・504 音楽・604	小学生のおんがく 1 小学生の音楽 2 小学生の音楽 3 小学生の音楽 4 小学生の音楽 5 小学生の音楽 6
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歌唱については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～音楽に合わせて体を動かし声を合わせたり、声の強さに気を付けて呼びかけ合ったりして歌う活動</p> <p>第3,4学年～友達と声やリズムを合わせたり、声が重なり合う美しさを感じ取ったりして歌う活動</p> <p>第5,6学年～和音の響きの移り変わりを感じ取ったり、曲想を生かして言葉や旋律のまとまりを大切にしたりして歌う活動</p> <p>○ 器楽については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～歌に合わせて楽器でリズムを打ったり、リズムを選んで歌と重ねたりして演奏する活動</p> <p>第3,4学年～リコーダーを吹く息の使い方に気を付けたり、パートの役割を生かしたりして演奏する活動</p> <p>第5,6学年～いろいろな楽器の音が重なり合う響きを味わったり、曲の特徴にふさわしい演奏の仕方を工夫したりして演奏する活動</p> <p>○ 音楽づくりについては、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～言葉でリズムをつくったり、リズムの繰り返しを使ったりして音楽をつくる活動</p> <p>第3,4学年～繰り返しや変化を使ってまとまりのあるリズムをつくったり、日本の音階のよさを感じ取ったりして音楽をつくる活動</p> <p>第5,6学年～打楽器の音色や音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくったり、旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくる活動</p> <p>○ 鑑賞については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～音楽に合わせて体を動かしたり、いろいろな楽器の音の中から好きな音を探したりして聴く活動</p> <p>第3,4学年～旋律の音の上がり下がり気付いたり、音が表している様子を思い浮かべたりして聴く活動</p> <p>第5,6学年～いろいろな楽器の音が重なり合う響きを味わったり、世界のような様々な楽器の組み合わせから生まれる響きを味わったりして聴く活動</p> <p>○ 〔共通事項〕については、目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～拍に乗ってリズムを感じ取って聴いたり、旋律の繰り返しを感じて演奏したりする活動</p> <p>第3,4学年～旋律の重なりを感じ取って聴いたり、リズム伴奏の面白さを感じて演奏したりする活動</p> <p>第5,6学年～詩と音楽の結び付きを感じ取って聴いたり、歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を感じて演奏したりする活動</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1,2学年～「はくにのってリズムをうとう」において、学習課題を設定</p>			

	<p>し、見通しをもたせるとともに、音楽に合わせてリズムを打つ学習の後に、習ったリズムを選んで歌いながら打つなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第3,4学年～「日本の音楽でつながろう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、箏曲を鑑賞した後に、日本の音階のよさを感じ取りながら旋律をつくるなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p> <p>第5,6学年～「詩と音楽の関わりを味わおう」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、日本歌曲の鑑賞の後に、曲想を感じ取って、思いが伝わるように歌うなど、考えを広げたり、深めたりする活動</p>
<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1,2学年～いろいろな楽器の音から好きな音を探す学習の後に、音を重ねて音楽づくりをする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3,4学年～旋律の特徴を感じ取って聴く学習の後に、旋律の特徴を生かして歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第5,6学年～日本の旋律の美しさを味わいながら歌う学習の後に、日本の民謡を調べる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～歌唱は38ページ、器楽は29ページ、音楽づくりは8ページ、鑑賞は19ページであり、総ページ数は82ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第2学年～歌唱は51ページ、器楽は23ページ、音楽づくりは8ページ、鑑賞は18ページであり、総ページ数は82ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第3学年～歌唱は37ページ、器楽は32ページ、音楽づくりは6ページ、鑑賞は17ページであり、総ページ数は86ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第4学年～歌唱は40ページ、器楽は24ページ、音楽づくりは8ページ、鑑賞は17ページであり、総ページ数は86ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第5学年～歌唱は38ページ、器楽は17ページ、音楽づくりは6ページ、鑑賞は23ページであり、総ページ数は86ページで、前回とほぼ同様となっている。</p> <p>第6学年～歌唱は39ページ、器楽は18ページ、音楽づくりは4ページ、鑑賞は13ページであり、総ページ数は86ページで、前回とほぼ同様となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 学習をサポートする写真やイラストを掲載したり（第3～6学年）、ナビゲーターのキャラクターを取り入れたり（全学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭に「学習マップ」を掲載し、1年間で学習する内容の見通しをもたせたり（全学年）、巻末に「ふり返りのページ」を掲載し、学習を振り返ることができるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ ユニバーサルフォントを使用したり（全学年）、外国語活動と連携した平易な英語歌詞の歌を掲載したり（第3～6学年）するとともに、二次元コードを掲載し、タブレット端末で学習するコンテンツ（ムーブの部屋）にアクセスし、参考となる音源や資料を活用できるようにする（全学年）など、使用上の便宜が図られている。</p>

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、鑑賞の教材として北海道の民謡である「ソーラン節」や「江差追分」、地域に伝わる踊りや舞の音楽として「アイヌ古式舞踊」が扱われていたり、調べ学習から地域の音楽へ興味・関心を育む学習活動が展開できる内容が取り扱われている。また、音楽づくりや鑑賞の授業において、地域のゲストティーチャーを招き、実際に楽器に触れたり音色を聴いたりする学習活動に活用することができる教材を扱っている。 ○ ICTの活用については、1人1台端末を活用した学習活動として、音楽づくりで録音した音楽を聴き返して手直しをしたり、自分たちの演奏を確かめたりする活動が設定されている。また、すべての教材において授業における参考資料として活用できる動画が掲載されているとともに、音楽づくりでは、ウェブ画面上で楽器や音符、リズム譜などを操作して音を並べたり楽譜を作成したりして、つくった音や音楽を聴くことができるような工夫がなされている。 ○ 小中連携については、各ページの右下に音楽を形づくっている要素を示したり、巻末の「ふり返りのページ」で1年間で学んだ、音楽を形づくっている要素を掲載し、学年毎の積み上げができるようにしているとともに、より進んだ学習内容や当該学年で扱わない内容を「チャレンジ」や「ステップアップ」として掲載しており、中学校へのスムーズな移行を促すための配慮がなされている。
<p>本市児童の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音の重なりや、特徴的なフレーズを聴いて感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを生かして表現を工夫する力を育むことができるよう、学習内容を視覚化できる「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」のアイコンを設け、表現の特徴や工夫の具体的な手立てを示すとともに、キャラクターの吹き出しの内容が児童の対話を促し、表現の工夫や思考のヒントとなるよう配慮がなされている。また、フレーズや旋律の重なりを表す絵図や歌い方のアドバイスを示した「歌声ルーム」を掲載するなどして、曲にふさわしい表現ができるよう工夫がなされている。 ○ 音遊びや即興的に音を選んだりつないだりして表現する力を育むことができるよう、「音楽づくり」というタイトルを付けて掲載し、具体的な作品例や豊富なアイデアが例示され、「何を」「どのように」工夫すればよいのか見通しがもてるよう工夫がなされている。また、鑑賞や器楽と関連させた題材となっており、前時に学んだことを生かしながら音符カードやリズムなどを選んだりつなげたりすることで、音遊びや即興的な演奏表現が容易にできるよう配慮がなされている。 ○ 鑑賞において、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、友達と伝え合い、友達の感じ方や考え方に共感する力を育むことができるよう、楽曲のイメージに合った風景等の写真や楽器の仕組みを説明する写真を豊富に掲載しているとともに、音色や曲想を図で表すなど楽曲の特徴を視覚的に捉えることができるよう工夫がなされている。また、自分の考えや気付きを書き込むワークシートが設けられ、話し合う活動に生かすことができるよう配慮がなされている。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「著作権について知ろう」を掲載し、著作権の説明や音楽の著作物を尊重することの大切さを考える内容が扱われている。